

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-144498

(43)公開日 平成8年(1996)6月4日

(51)Int.Cl.

E 04 F 21/16
21/165

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

K

S

審査請求 未請求 請求項の数6 FD (全7頁)

(21)出願番号 特願平6-314308

(22)出願日 平成6年(1994)11月25日

(71)出願人 591012738

ヤヨイ化学工業株式会社
富山県西砺波郡福岡町本領70

(72)発明者 佐野 淳

富山県西砺波郡福岡町本領70 ヤヨイ化学
工業株式会社内

(74)代理人 弁理士 佐藤 正年 (外1名)

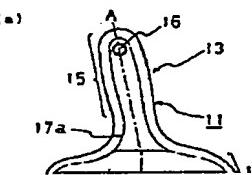
(54)【発明の名称】 パテペラ

(57)

【要約】

【目的】

パテ、ジョイントセメント接着剤等の塗布性
と指や手のひらにかかる負担の低減を両立させること



1998-01-04
09:42:17

PGRG35 PATENT- OCH REGISTRERINGSVERKET
INMATNING AV HÄNVISNING NR. 888

1) TYP A 2) MOT KRAVEN 11-12
3) TYP 4) MOT KRAVEN
5) TYP 6) MOT KRAVEN

HÄNVISNINGEN INNANTRÄTSKÄRDET

7) LAND/ORGANISATION 8) DOKUMENTNR 9) DOKUMENTNR

10) SÖKANDE

11) PUBLICERINGSDATUM	EV. ANNAT SEKE	SPALT	RAD
12) SID SPALT	RAD TILL SID	SPALT	RAD
13) SID SPALT	RAD TILL SID	SPALT	RAD
14) SID SPALT	RAD TILL SID	SPALT	RAD
15) SID SPALT	RAD TILL SID	SPALT	RAD
16) FIGUR	KRAV		
17) SAMMANDRAG (J/N)			
18) YTTERLIGARE KOMMENTARER:			

WPI

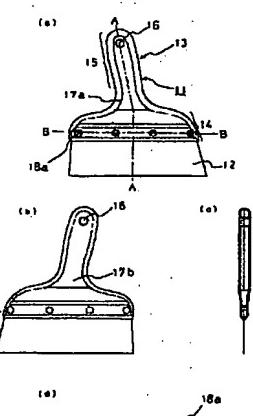
- TI - Putty wrasse for smoothening defective parts and difference in wall levels - sets thickness of handle part thicker than that of nipping portion of braid with handle
- AB - J08144498 The putty wrasse has a thick nipped braid (12) connected to a handle (13) by using a couple of braid nipping pieces (25a, 25b). The handle has a gripping part (15) provided with a latching hole (16).
 - The thickness of the gripping part of the handle is thicker than that at the nipping part where to braid is joined with handle.
 - ADVANTAGE - Provides improvement in coating. Enables easy exchange of braid part. Facilitates draining of water that enter into handle part.
 - (Dwg.1/4)
- PN - JP8144498 A 19960604 DW199632 E04F21/16 007pp
- PR - JP19940314308 19941125
- PA - (YAYO-N) YAYOI KAGAKU KOGYO KK
- DC - Q45
- IC - E04F21/16 ;E04F21/165
- AN - 1996-319781 [32]

PAJ

- TI - PUTTY SPATULA

- AB - PURPOSE: To improve coating properties by molding a putty spatula of a blade smoothing down putty by a rear and a grip holding the blade and making the thickness of the grip section of the grip thicker than the total thickness of the blade and a holding piece section.
- CONSTITUTION: A putty spatula 11 is molded of a trapezoidal steel blade 12 having sides, one side of which is more inclined, and an approximately T-shaped grip 13 holding the blade 12. The grip 13 of the putty spatula 11 is constituted by laminating an upper member 17a and a lower member 17b, in which the grip 13 is divided by the plane of the blade 12 and which are made of rigid plastics. The thickness of the grip section 15 of the upper member 17a is made thicker than that of the grip section 15 of the lower member 17b, and a retaining hole 16 hooking the putty spatula 11 to a hook is formed at the rear end section of the grip section 15. Accordingly, a burden charged to a hand and the palm of the hand at the time of operation due to the thick grip section is reduced, and the coating properties of putty can be improved.

- PN - JP8144498 A 19960604
- PD - 1996-06-04
- ABD - 19961031
- ABV - 199610
- AP - JP19940314308 19941125
- PA - YAYOI KAGAKU KOGYO KK
- IN - SANO GENZO
- I - E04F21/16 ;E04F21/165



<First Page Image>

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-144498

(43)公開日 平成8年(1996)6月4日

(51) Int.Cl.[®]

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

E 04 F 21/16

K

21/165

S

審査請求・未請求 請求項の数6 FD (全7頁)

(21)出願番号 特願平8-314308

(71)出願人 591012738

(22)出願日 平成6年(1994)11月25日

ヤヨイ化学工業株式会社

富山県西砺波郡福岡町本領70

(72)発明者 佐野 順康

富山県西砺波郡福岡町本領70 ヤヨイ化学
工業株式会社内

(74)代理人 弁理士 佐藤 正年 (外1名)

(54)【発明の名称】 パテベラ

(57)

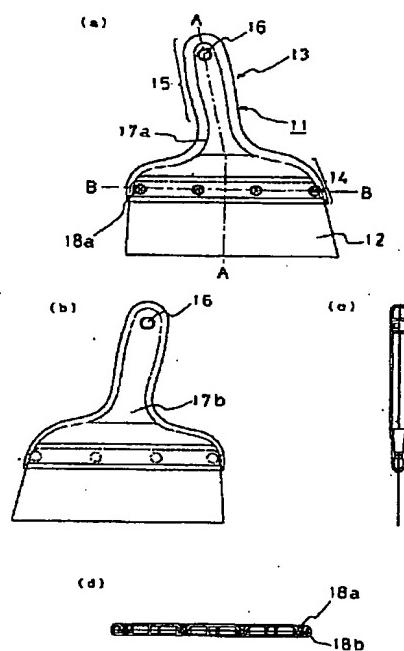
【要約】

【目的】

パテ、ジョイントセメント接着剤等の塗布性
と、指や手のひらにかかる負担の低減を両立させること
のできるパテベラを得る。

【構成】

パテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブ
レードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把
手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブ
レード挟持片部と、これに続く握り部とを備えたパテベラ
において、把手の握り部の厚さが、ブレードとこの後端
縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さより
も厚いものである。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部と、これに続く握り部とを備えたバテベラにおいて、把手の握り部の厚さが、ブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚いことを特徴とするバテベラ。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のバテベラにおいて、把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が、表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少ないと特徴とするバテベラ。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載のバテベラにおいて、把手が硬質プラスチックで中空成形されたことを特徴とするバテベラ。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のバテベラにおいて、把手の後端部分に中空内部に連通する連通孔を備えたことを特徴とするバテベラ。

【請求項 5】

請求項 1 に記載のバテベラにおいて、ブレードとこのブレードが挟持されたブレード挟持片部の一方を貫通して、他方のブレード挟持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたことを特徴とするバテベラ。

【請求項 6】

バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部と、これに続くブレード前端縁に直交する直交軸に対して傾斜した長手軸を有する握り部とを備えたバテベラにおいて、

把手が硬質プラスチックで中空成形され、この把手の握り部がブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚く、この把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少なく、

この把手の後端部に中空内部に連通する連通孔を備え、
〔発明の詳細な説明〕ドが挟持されたブレード挟持片部
〔0001〕を通して、裏面側のブレード挟持片部に埋め
〔産業上の利用分野〕杏発明は例えば劈面等の補修工事
の際にこじれ地や欠損部も段差溝等を埋めるバテを撫付けて平滑にするバテベラに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図 4 は従来のバテベラの構成を示す説明図であり、a 図は平面図、b 図は側面図、c 図は底面図

である。図 4 に示す通り、バテベラ(1)

は、3~8寸の

幅(約 8.0 ~ 25.5 cm) を有する矩形又は台形の鋼製のブレード(2)

と、このブレード(2)

を保持する木

製の略 T 字状の把手(3)

とからなる。

【0003】この把手(3)

は、ブレード(2)

を取り付け

るブレード取付け部(4)

と、これに続く握り部(5)

とを

備えている。ブレード取付け部(4)

は厚さ中央部にブレ

ード(2)

の幅厚の溝(6)

が切除され、この溝(6)

にブレ

ード(2)

の後端縁を挟み込み、ブレード取付け部(4)

と

ブレード(2)

の後端縁部とを貫通してリベット(7)

で固

定されている。

【0004】握り部(5)

の長手軸とブレード(2)

の先端

辺とのなす角度は、一般的には 90 度であるが、使用の状態を考慮して、図 4 に示したものは、傾斜させて形成されている。即ち、作業者はバテを撫付ける際には、目視によって撫付け部分の状態を確認するため、身体のはば中心線上で行う。従って、握り部(5)

の長手軸とブレ

ード(2)

の先端辺とのなす角度が 90 度であると、手首

を曲げて行わなければならず、手首に負担がかかることとなる。

【0005】もし、作業者の利き腕が右手であれば、上

方から見た時の握り部(5)

の長手軸とブレード(2)

の先

端辺とのなす角度は、右へ若干傾けると作業時の手首にかかる負担が低減できる。また逆に、作業者が左利きであれば、その逆に傾ければ良い。

【0006】このようなバテベラの把手(3)

は、従来

は、合板を略 T 字状に切りだして、握り部(5)

からブレ

ード取り付け部(4)

につながる肩部分を R 加工して、作

成されていた。このため、把手(3)

明が解決しようとする課題)ところで、把手部(3)を薄くすれば、ヘラをより寝かせて使用するた
バテの塗布性が良好になり、重量が軽くなる。しか
がら、その反面、R加工された端縁部の曲率が小さ
ることにより、ヘラを手に持つ場合に、指や手のひ
かかる負担が大きくなり、また、把手部(3)

の
が低下する問題があった。

008】一方、把手部(3)
さを厚くすれば、R
された端縁部の曲率が大きくなり、手や手のひらに
る負担が小さくなり、ハンドル部全体の強度が向上
。しかしながら、その反面、ヘラを寝かせて使用し
合に、把手部(3)

端や指等が下地に接触するた

バテの塗布性が悪くなり、また重量が重くなる問題
った。

009】本発明は、バテ、ジョイントセメント、接
等の塗布性と、指や手のひらにかかる負担の低減を
させることのできるバテベラを得ること、更に、軽
と強度の確保を両立させたバテベラを得ることを目
する。また加えて、作業終了後の洗浄の際に、良好

に洗浄することができるバテベラを得ることを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】本請求項1に記載された発明に係るバテベラでは、バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部と、これに続く握り部とを備えたバテベラにおいて、把手の握り部の厚さが、ブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚いものである。

【0011】本請求項2に記載された発明に係るバテベラでは、請求項1に記載のバテベラにおいて、把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が、表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少ないものである。

【0012】本請求項3に記載された発明に係るバテベラでは、請求項1又は2に記載のバテベラにおいて、把手が硬質プラスチックで中空成形されたものである。

【0013】本請求項4に記載された発明に係るバテベラでは、請求項3に記載のバテベラにおいて、把手の後端部分に中空内部に連通する連通孔を備えたものである。

【0014】本請求項5に記載された発明に係るバテベラでは、請求項1に記載のバテベラにおいて、ブレードとこのブレードが挟持されたブレード挟持片部の一方を貫通して、他方のブレード挟持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものである。

【0015】本請求項6に記載された発明に係るバテベラでは、バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部と、これに続くブレード前端縁に直交する直交軸に対して傾斜した長手軸を有する握り部とを備えたバテベラにおいて、把手が硬質プラスチックで中空成形され、この把手の握り部がブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚く、この把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少なく、この把手の後端部に中空内部に連通する連通孔を備え、ブレードとこのブレードが挟持されたブレード挟持片部の表面側を貫通して、裏面側のブレード挟持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものである。

【0016】

【作用】本発明においては、バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードを保持する把手の握り部の厚さが、ブレードとこのブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚

いものであるため、握り部が厚く、作業時に手や手のひらにかかる負担が小さくなる。尚且、把手の先端部（即ち、ブレードの挟持部）が薄いため、ヘラをより寝かせて使用できるため、バテの塗布性が良好になる。

【0017】即ち、ブレードとこのブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さは、ヘラを寝かせても握り部の一部や指が下地面上に当らない程度の厚みとし、また、指や手のひらが当る部分を厚くすることにより、指や手のひらへの負担を軽減することができる。

【0018】また、本発明では、握り部が作業に適した厚さを有し、この握り部の厚さによって、ヘラを寝かせて使用する際に、握り部の一部や指が下地に当らないように、把手部の先端を握り部に比して薄くしたものであればよく、ブレードに対する握り部の取り付け角度は何の制限をもつものではない。例えば、ブレードに対して、握り部の取り付け角度を表面側（上方）に若干反り返しても良い。

【0019】また、本発明では、好ましくは裏面側と表面側とのブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が同じではないように構成する。好ましくは把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が、表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少ないと想定され、ヘラをより寝かせて使用でき、尚且、人差し指と中指との押圧によって表面から裏面方向への押圧を良好に行うことができ、バテの塗布性が良好になる。

【0020】即ち、本発明のバテベラには裏面と表面とがあり、握り部を上方から包み込むように握り、例えば人差し指又は人差し指と中指とをブレード挟持片部に上方からあてがうように握ることにより用いる。この際、裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が少ないと想定され、バテベラをより寝かせることができ、尚且、表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が適度にあるため、人差し指又は人差し指と中指との押圧によって表面から裏面方向への押圧を行なうことができる。

【0021】更に、本発明では、把手が硬質プラスチックで中空成形されたものであるため、大量製造が容易で、軽量である。具体的には、把手をブレードの平面で表側（上部）と裏側（下部）との部材に別けて、これをブレードと共に貼り合せる構成とすることによって容易に作成できる。また、充分な強度を確保するためには、中空内部に補強リブを設ければ良く、この補強リブの作成も硬質プラスチックの成形で容易である。尚、硬質プラスチックとしては、バテベラに用いるのに充分な強度が得られるものであればよく、例えば、A B S樹脂、ポリアロビレン、ナイロン、その他それらの積層物等の硬質プラスチックを用いることができる。

【0022】また、本発明では、硬質プラスチックで中空成形された把手の後端部分に中空内部に連通する連通

孔を備えたものであるため、把手に部分的な破損が生じ、使用後の洗浄時に内部に水が入っても、容易にこの連通孔から水を抜くことができる。

【0023】尚、前述の通り、把手が硬質プラスチックで中空成形されたものでは、充分な強度を確保するため、中空内部に補強リブを設けているが、この補強リブで区画される領域間の連通のために、補強リブの一部を切り欠いて、水抜き用の連通路を確保する。

【0024】また、連通孔の設置位置は、作業時に邪魔にならない位置であれば、把手の後端部分の何れの箇所に設けても良いが、連通孔が外観に表われた場合には、デザイン上好ましくない。このため、通常、把手の後端部に穿設される引っ掛け保持する掛止孔の内部に好ましくは設ける。

【0025】更に、本発明では、ブレードとこのブレードが挟持されたブレード挟持片部の一方を貫通して、他方のブレード挟持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものであるため、しっかりとブレードを固定することができる。また、必要に応じて、ブレードの交換が可能となる。

【0026】また、他方のブレード挟持片部に埋め込まれている雌ネジは、他方のブレード挟持片部の外側に表出される必要がなく、ネジが螺合される反対側のブレード挟持片部は、埋め込まれて盲状態とすることができます。従って、例えば把手の裏側の面に雌ネジが表出しないように形成することができ、目地、欠損部、段差溝等を埋めるパテを撫付けて平滑にする際に、雌ネジ部分が下地に触れることがなく、平滑なパテの撫付け面が得られる。また、不用意に付着するがないため、作業終了後の水洗いを良好に行うことができる。

【0027】また、本発明では、パテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挟持片部と、これに続くブレード前端縁に直交する直交軸に対して傾斜した長手軸を有する握り部とを備えたバテベラにおいて；把手が硬質プラスチックで中空成形され；この把手の握り部がブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挟持片部とを合わせた厚さよりも厚く；この把手の裏面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化が表面側のブレード挟持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少なく；この把手の後端部に中空内部に連通する連通孔を備え；ブレードとこのブレードが挟持されたブレード挟持片部の表面側を貫通して、裏面側のブレード挟持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものである。

【0028】

【実施例】図1は本発明のバテベラの構成を示す説明図であり、a図は平面図、b図は底面図、c図はA-A断面図、d図はB-B断面図である。図2は図1に示すバ

テベラの把手の上部部材の構成を示す説明図であり、a図は上部部材の平面図、b図はA-A断面図である。図3は図1に示すバテベラの把手の下部部材の構成を示す説明図であり、a図は上部部材の平面図、b図はA-A断面図である。

【0029】図1に示す通り、本発明のバテベラ(11)は、3~8寸の幅(約8.0~25.5cm)を有する一方がより傾斜した側辺を有する台形の鋼製のブレード(12)

と、このブレード(12)
を保持する略T字状の把手(13)
3)

とからなる。この把手(13)
は、ブレード(12)
を取り付
けるブレード取付け部(14)
と、これに続く握り部(15)
と

を備えている。また、握り部(15)
の後端部には、バテベ
ラ(11)

をフック等に引っ掛ける際に用いる掛止孔(16)

が

備わっている。

【0030】尚、握り部(15)

の長手軸とブレード(12)

の

先端辺とのなす角度は、傾斜させて形成されて、バテの撫付ける際に、作業者の手首に負担がかかり難い構成となっている。即ち、図に示したバテベラ(11)

は上方から

見た時の握り部(15)

の長手軸とブレード(12)

の先端辺と

のなす角度が、右へ若干傾斜しており、右利き用である。

【0031】このバテベラ(11)

の把手(13)

は、ブレード

(12)

平面でほぼ分割された図2に示す硬質プラスチック

(具体的に)製の上部部材(17a)

と、図3に示す下部部

材(17b)

とを張り合せて構成されている。各図に示す通り、上部部材(17a)

の握り部(15)

の厚みは下部部材(17

b)

の握り部(15)

の厚みよりも厚くなっている。

【0032】図2に示す通り、上部部材(17a)

の張合せ

面側には、ブレード取付け部(14)

成され、この手
強リブ(19a)
るように横補強リブ(20a)

れている。またブレード取付け部(14)
、横方向
びてブレード取付け部(14)
手(13)
空部分と
画するブレード横補強リブ(21a)
成されてい

033】このブレード横補強リブ(21a)
先端縁
(22a)
めに幾本ものブレード補強リブ(23a)

されている。このブレード横補強リブ(21a)
先
がブレード挿持片部(25a)
成する。更に、握り
5)
端部には、掛止孔(16)
りに掛止孔リブ(1

成され、ブレード挿持片部(25a)
、ほぼ均
4つのネジ孔(26a)
成されている。
034】図3に示す通り、下部部材(17b)
合せ
には、上部部材(17a)
リブ(19a)
3a)

る位置に各リブ(19b)
3b)
成されている。
で、上部部材の横補強リブ(20a)
応する下部部
横補強リブ(20b)
上部部材の掛止孔リブ(16a)
応する下部部材の掛止孔リブ(16b)
一部が切
て形成されている。
035】これは、把手(13)
分的な破損が生じ、

使用後の洗浄時に内部に水が入っても、容易に水を抜く
ことができるようにするために、横補強リブ(20a)
と一

部を切欠いた横補強リブ(20b)
とを組合せた際に各リブ
で区画される中空部分に連通路を形成させ、掛止孔リブ
(16a)

と一部を切欠いた掛止孔リブ(16b)

とを組合せた

際に掛止孔(16)

の内側に連通孔(25)

を形成させるもので

ある。

【0036】更に、内部にコア他少量に水を抜け易く
するため、下部部材を下側にして保持或いは床面に置い
た際に、一部を切欠いた掛止孔リブ(16b)

に連続する把

手13

の内部側のみで尚且掛止孔リブ周辺部のみをそれ以
外の部分より低くすることにより、その低くなった部分
に水が集中し易くなり、少量の水がより抜け易くなる。

【0037】また、ブレード挟持片部(25a)

の4つのネ

ジ孔(26a)

に対応する下部部材(17b)

のブレード挟持片

部(25b)

の位置には、雌ネジ(図示せず)が埋め込まれ
る雌ネジ保持部(26b)

が形成されている。

【0038】このようなバテベラ(11)

は、上部部材(17

a)

及び下部部材(17b)

を組合せる際に、ネジ孔(26a)

及び雌ネジ保持部(26b)

の対応位置にネジ貫通孔(図示

せず)を有したブレード(12)

を上部部材(17a)

のブレー

ド挟持片部(25a)

と下部部材(17b)

のブレード挟持片部

(25b)

とで挟持し、上部部材(17a)

のネジ孔(26a)

か

ら、ネジ(18a)

をブレード(12)

のネジ貫通孔を貫通させ

て雌ネジ(18b)

に螺着して固定される。

【0039】

【発明の効果】本発明は以上説明したとおり、バテを裏

厚さよりも厚いものであるため、握り部が厚く、作業時に手や手のひらにかかる負担が小さくなる。且、先端部（即ち、ブレードの挿持部）が薄いため、をより寝かせて使用できるため、バテの塗布性が良好となる。

【040】また、本発明では、好ましくは把手の裏面のブレード挿持片部から握り部に至る厚さ変化が、表面のブレード挿持片部から握り部に至る厚さ変化よりもないため、ヘラをより寝かせて使用でき、尚且、人差し指と中指との押圧によって表面から裏面方向への押良好に行うことができ、バテの塗布性が良好になる。

【041】更に、本発明では、把手が硬質プラスチックで中空成形されたものであるため、大量製造が容易で軽量である。

【042】また、本発明では、硬質プラスチックで中空成形された把手の後端部分に中空内部に連通する連通孔備えたものであるため、把手に部分的な破損が生じ、使用後の洗浄時に内部に水が入っても、容易にこの連通孔から水を抜くことができる。

【0043】更に、本発明では、ブレードとこのブレードが挿持されたブレード挿持片部の一方を貫通して、他方のブレード挿持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものであるため、しっかりとブレードを固定することができる。また、必要に応じて、ブレードの交換が可能となる。

【0044】また、本発明では、バテを裏面で撫付ける予め定められた幅のブレードと、ブレードを保持する把手とからなり、この把手がブレードの後端縁の裏面と表面とを挟む一組のブレード挿持片部と、これに続くブレード前端縁に直交する直交軸に対して傾斜した長手軸を有する握り部とを備えたバテベラにおいて；把手が硬質プラスチックで中空成形され；この把手の握り部がブレードとこの後端縁を挟む一組のブレード挿持片部とを合わせた厚さよりも厚く；この把手の裏面側のブレード挿持片部から握り部に至る厚さ変化が表面側のブレード挿持片部から握り部に至る厚さ変化よりも少なく；この把手の後端部に中空内部に連通する連通孔を備え；ブレードとこのブレードが挿持されたブレード挿持片部の表面側を貫通して、裏面側のブレード挿持片部に埋め込まれた雌ネジ部に螺合するネジでこのブレードが固定されたものであるため、操作が良好で、作業時に手や手のひらにかかる負担が小さくなる。更に、バテの塗布性が良好になる。また、人差し指と中指との押圧によって表面から裏面方向への押良好に行うことができる。更に、大量製造が容易で、軽量である。また、把手の部分的な破損が生じ、使用後の洗浄時に内部に水が入っても、容易にこの連通孔から水を抜くことができる。更に、しっかりとブレードを固定することができる。また、必要に応じて、ブレードの交換が可能となる等の効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のバテベラの構成を示す説明図であり、a図は平面図、b図は底面図、c図はA-A断面図、d図はB-B断面図である。

【図2】図1に示すバテベラの把手の上部部材の構成を示す説明図であり、a図は上部部材の平面図、b図はA-A断面図である。

【図3】図1に示すバテベラの把手の下部部材の構成を示す説明図であり、a図は上部部材の平面図、b図はA-A断面図である。

【図4】従来のバテベラの構成を示す説明図であり、a図は平面図、b図は側面図、c図は底面図である。

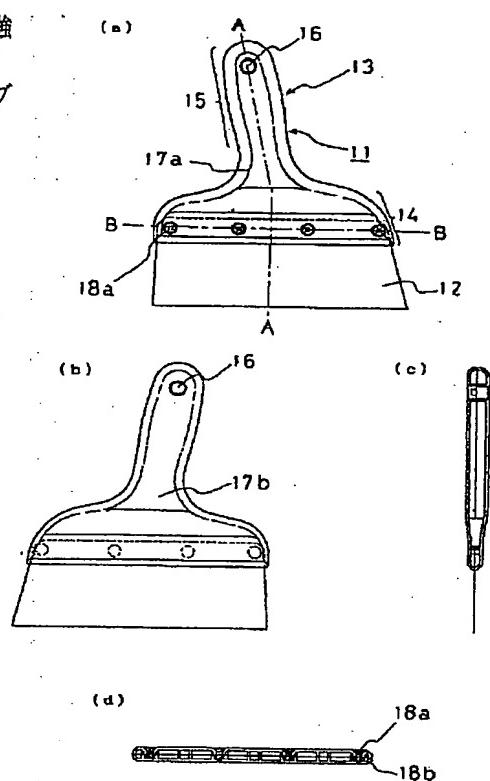
【符号の説明】

- (11) …バテベラ、
- (12) …ブレード、
- (13) …把手、
- (14) …ブレード取付け部、
- (15)

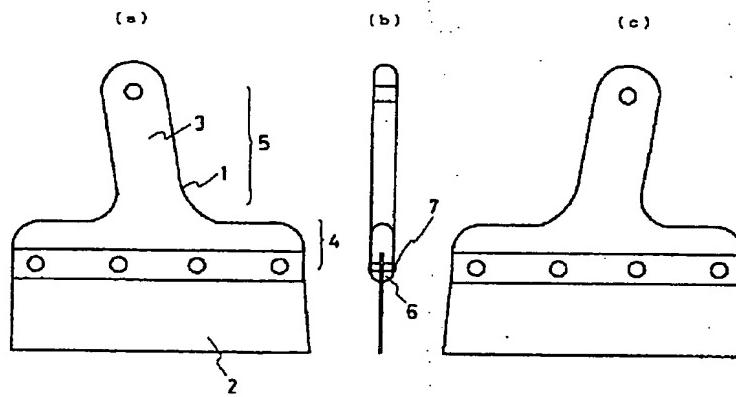
- (17a)
…上部部材、
(17b)
…下部部材、
(18a)
…ネジ、
(18b)
…雌ネジ、
(19a)(19b)
…長手軸補強
(20a)(20b)
…横補強リブ

- (21a)(21b)
…ブレード横補強リブ、
(22a)(22b)
…先端縁リブ、
(23a)(23b)
…ブレード補強リブ、
(25a)(25b)
…ブレード挿持片部、
(26a)
…ネジ孔、
(26b)
…雌ネジ保持部

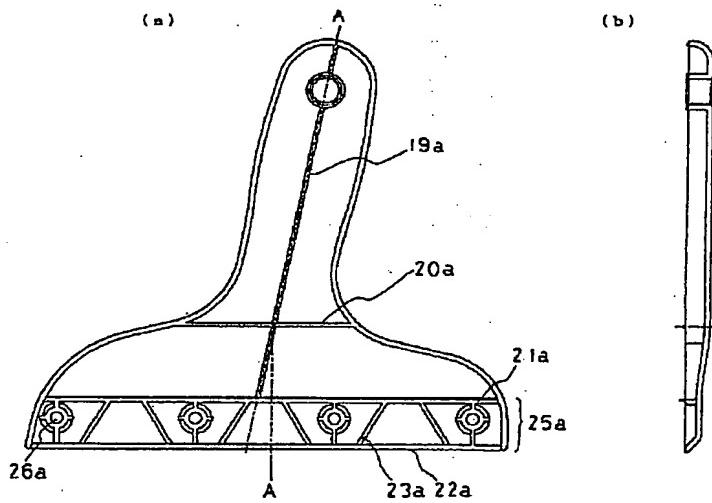
【図1】



【図4】



【図2】



【図3】

